

当院で僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁形成術を受けられた患者さん・ご家族様へ

研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究は、普段の診療で得られた以下の情報を解析してまとめるものです。この研究のために、新たな検査等はありません。ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、以下の担当者までご連絡ください。また、この研究に診療の情報を使ってほしくないとのご意思がある場合も、遠慮なくご連絡ください。お申し出以降は、その方の情報はこの研究には利用せず、すでに収集した情報があれば削除します。お申し出による不利益は一切ありません。ただし、解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】2021年10月1日～2023年3月31日の間に僧帽弁閉鎖不全症に対して僧帽弁形成術を受けられた方

【研究課題名】僧帽弁形成術における周術期の心機能と僧帽弁機能の経時的変化について3Dエコーを用いた解析

【研究責任者】

国立循環器病研究センター 輸血管理部 部長 吉谷 健司

【研究の目的・意義】

僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁形成術の際に、経食道心エコーを用いて逆流が残存していないか評価を行います。人工心肺離脱直前に評価を行う必要がありますが、その時点ではまだ心機能が十分に回復していないため、正確な逆流評価と異なり、不必要な再修復に繋がる可能性があります。そのため本研究では、人工心肺離脱直前の心機能低下時点での弁の機能は、どのような点で心機能正常時（心機能が回復した手術終盤の閉胸時）と異なっているか明らかにすることを目的としています。本研究の成果により僧帽弁形成術において不必要な再修復を回避できる可能性があります。

【利用する診療情報等】

年齢・性別・身長・体重・病名・術式

術前の経胸壁および経食道心エコー（心機能・弁膜症の程度）

術中の経食道心エコー（人工心肺前、大動脈遮断解除直後、閉胸時のそれぞれの心機能・僧帽弁機能）

経食道心エコーで心機能評価時の循環作動薬の量・体血圧・肺動脈圧・中心静脈圧

【情報の管理責任者】

国立循環器病研究センター 理事長

【研究期間】 研究許可日より 2025 年 3 月 31 日まで（予定）

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所等の個人を直接特定する情報については厳重に管理し、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人を特定できない形で行います。

【この研究の結果について】

この研究は、ご自身またはご家族の健康に関する新たな結果が得られるものではありませんので、研究の結果を個別にお知らせすることはありません。

【問合せ先】 国立循環器病研究センター 麻酔科 担当医師 山崎 克晃
電話 06-6170-1070(代表)